

消防士から AED (自動体外式除細動器) の使い方を真剣に聞く
外国籍市民の参加者たち



SIRAの外国人支援事業

防災訓練をきっかけに
地域の人々と顔なじみに

▶▶ 三条町防災訓練に外国籍市民が参加 (2009年11月1日)

外国籍市民の集住地区「三条町」

青葉区三条町は、東北大学国際交流会館や仙台第一国際交流会館があり、留学生や外国籍研究者など多くの外国籍市民が暮らしている地域。町を歩けば、多くの外国籍市民に出会うことができます。隣接する八幡や国見の小学校には、外国籍児童のための国際学級もあるなど、家族で暮らす人たちも多い地域です。

この地区の防災訓練は毎年三条中学校で行われます。国見東部ブロックの町内会が消防局と一緒に準備運営しており、平成 15 年からは SIRA もこの訓練に関わるようになりました。外国籍市民が参加しやすい訓練になるようにサポートをしています。

今年の訓練には、留学生を中心に 20 名ほどの外国籍市民が参加。日本語が不自由な参加者のために、* 仙台市災害時言語ボランティアやせんだい留学生交流委員も通訳として訓練に加わりました。(* どちらも SIRA や仙台市の事業をサポートする協力者制度。詳しくは SIRA の HP で。)

地域の人々と一緒に訓練

町内会の人たちに混じって、訓練用消火器を使った消火訓練や、AED(自動体外式除細動器)を使った応急処置訓練などを体験。防災訓練ならではのわかりにくい日本語は、通訳者がそばについて説明をしました。参加者からは「訓練内容がとても具体的で、災害時に役立つと思う」「通訳がいてくれたので、わかりやすかった」との感想がありました。



マネキンを使った被災者救出訓練の様子
青のジャンパーを着た言語ボランティアが通訳として訓練をサポート

最後の体験は、炊き出し訓練。アルファ米の炊き込みご飯と、豚汁を参加者全員でいただきました。町内会のお母さんたちが用意してくれた豚汁は2種類。ひとつは普通の豚汁ですが、もうひとつはイスラム教の外国籍市民に配慮した肉無しの汁です。

今年のイスラム教の参加者はインドネシア出身の2名だけでしたが、実際の災害時にはこうした配慮が非常に重要になります。地域の人々にとっては、「違った文化を持つ人々が近所に暮らしている」、ということを実感する機会にもなるのです。

外国籍市民が災害時のチカラに

地域のつながりが薄くなっている今日では、町内会活動に参加する若者の姿は少なく、年配の方々が中心です。いざ災害が起こった時、力仕事を担える人たちが少ないかもしれません。一方日本語が不自由なことから災害時は支援の対象と考えられがちな外国籍市民は留学生を中心に元気な若者がたくさんいます。彼等は訓練に参加することにより、災害時に地域を支える即戦力になれる可能性も秘めているのです。



炊き出し訓練での配給の様子
外国籍参加者も列に並び、炊き込みご飯と豚汁を受け取る

災害時に備えて、顔なじみの関係を作っていく — SIRAでは、地域と外国籍市民がつながる三条町のような試みを、他の地域にも広げていきたいと考えています。